

中小企業経営 「読む力」必要



「日本経済の見通しと中小企業経営を考える」と題して講演する山口義行氏＝多治見市虎溪山町、とうしん学びの丘エール

東信経済倶楽部
多治見で講演会

東濃信用金庫の取引先でつくる東信経済倶楽部は、講演会を多治見市虎溪山町のとうしん学びの丘エールで開き、中小企業サポートネットワーク「スモールサン」主宰の山口義行氏が「日本経済の見通しと中小企業経営を考える」と題して講演した。

山口氏は約130人を前

に、経営者に必要な能力は読む力と問う力、つなぐ力の三つと強調。読む力では、リーマン・ショック前に不況になると警鐘を鳴らしても聞く耳を持たれなかった経験や景気動向指数を示し、「経営者は景気の先行きを読み解き、説明できるくらい勉強しないといけない」と指摘した。

問う力では、スマートフォンや電気自動車を例に「ビジネスモデルが根本から変わってしまう時代。今後、今の事業がどう大きなシステムの一部になっていくか、これでいいのか常に問い続けてほしい」と呼び掛けた。

(野中準二)